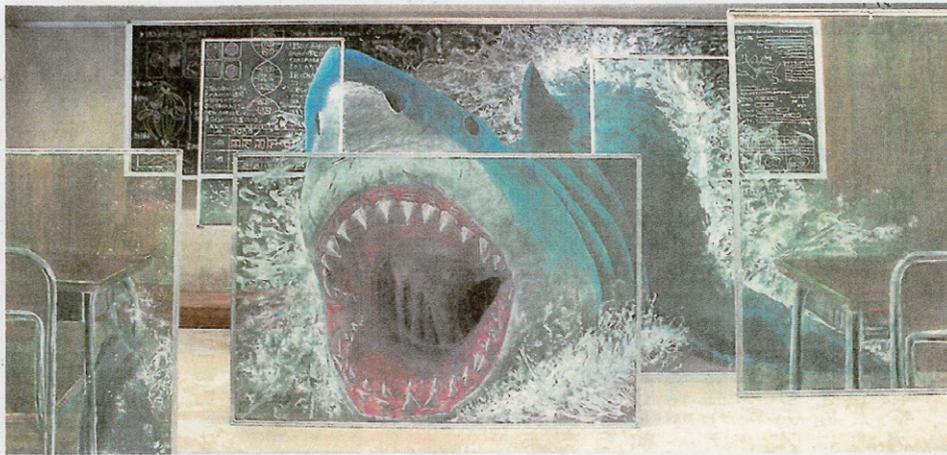


四國新聞11月12日(木)
地域総合(16ページ)より抜粋

(WEB掲載許諾済)

全国黑板アート甲子園

善通寺一高が優秀賞



独創性評価 6枚使い迫力のサメ

大会は、黑板・白板メーカーの日学(東京)が2015年から毎年開催。今年高校生部門には45校から101点の応募があり、善通寺一高からは女子生徒5人でつくるグループ「うみんちゅ」が出場した。5人の作品名は「消し忘れ注意!!」。「若者らしい快活さやみずみずしい感性をアピールしよう」と、サメをモチーフに選び、消し忘れた黑板から勢いよく飛び出す様子を描いた。作品に奥行きを持たせるため、黑板6枚を前後左右にバランスよく配置しているのが特長で、離れて真ん中から鑑賞すると6枚の絵が一つの作品としてつながるように仕立てた。

制作期間は夏休み中の約2週間。鑑賞位置にタブレット端末を置き、描き進め

黑板6枚を使ってサメを描き、優秀賞に輝いた善通寺一高生の作品

るたびに端末の画面を見て、それぞれの黑板に描かれた絵がつながっているかを確かめながら作業を進めた。サメについては図書館で調べたり、映画を見たりしてイメージを膨らませ、口の中や歯の形に重点を置いて描いたという。さまざまな色のチョークを塗り重ねるなどして立体的に仕上げ、今にも襲ってきそうな迫力あるサメを生み出した。

また、教室の机を描いて教室の実際の背景との一体感表現。チョークの粉を黑板にかけること躍動感ある水しぶきを描くなどの工夫も凝らした。審査員からは「非常にアイデアあふれる作品。着想の斬新さで黑板アートに新たな方向性を示した」との評価を受けた。

リーダーの井上和音さん(16)は「メンバーとの絆を深められたし、みんなの価値観にも触られた。若者のうちに何かに挑戦する大切さを改めて感じた」と語った。

●高画質画像

